

観光社会資本の事例

テーマ	輪島の文化、伝統との交流や情報受発信の拠点
 輪島市の玄関口「ふらっと^{ほうむ}訪夢」 輪島らしさの漂う“輪風”の交流拠点施設	 情報受発信の拠点となる観光案内センター
[施設の利用写真]  観光客、市民の足となるバス等の発着場	 「ふらっと^{ほうむ}訪夢」での御陣乗^{ごじんじょう}太鼓の実演
[観光資源としての利用状況] ふらっと^{ほうむ}訪夢は、輪島市の交通拠点としてのみではなく、地場産の能登ヒバ材の集成材による架構と在来の軸組工法を組み合わせた構造と、外観には切妻屋根と格子を使用するなど、市に訪れる観光客（年間約130万人）の観光スポットとして定着しつつあります。 また、本施設は輪島市観光協会と連携して、現在、石川県無形文化財指定である御陣乗^{ごじんじょう}太鼓の実演を「ふらっと訪夢」で実施するなど、「町の観光資源」としての利用を進めています。	

テーマ	輪島の文化、伝統との交流や情報受発信の拠点
[社会資本の基礎データ] ○名称 ふらっと訪夢^{ほうむ} ○所在地 石川県輪島市河井町 20 部 1 の 131 ○事業名 まちづくり総合支援事業（輪島駅前地区） ○事業主体 輪島市 ○事業期間 平成 13 年～平成 17 年(施設整備：平成 13 年 7 月～平成 14 年 2 月)	
[社会資本の役割・効果] ○観光振興効果 輪島市は奥能登観光の拠点として鉄道の歴史とともに栄えてきましたが、年間の観光入込客数は平成3年以降急激に減少し、更には急激なモータリゼーションの進展を背景として、平成13年3月には「のと鉄道（輪島－穴水間）」が廃止された。 新しい玄関口として、道の駅・輪島「ふらっと訪夢^{ほうむ}」の完成により、これに伴う市内循環「のらんけバス」、輪島～和倉間特急バス、輪島～金沢間特急バス、輪島～穴水路線バス等の発着場及び観光案内センターなどの拠点として活用されており、輪島市の観光客減少を食い止めている。 (H16年:約130万人／年)	
[位置図]  	
[関連ホームページ] よらんかいね輪島 http://www.wajima-city.or.jp/kankoutop/index.html	

